



【おうち英語】文法過学習の弊害

先週の Instagram MommyKayo おうち英語 Insight では
<おうち英語っ子最後の関門?!【英文法】攻略法を考える>
と題して、英文法学習の必要性を語っていましたが、
英文法学習のアプローチは多岐にわたります。

今回は
おうち英語っ子の学校英語での英文法学習との付き合い方
について深掘りしてみたいと思います。

学校英語は英文法の基礎を確認できる機会ともなりますが
時におうち英語っ子の能力に悪影響をもたらすこともあるかと・・・。

日本の公教育を選択していくと
学校の試験、高校入試、大学入試などへの対策としての
英文法学習は避けて通れません。

入試問題には良問もある一方、
基本、入試は落とすためのテストとなるため
重箱の隅をつつくような問題が多くなりがちなのも事実。

時に英文法過学習に陥りがちになることも。。。。

今日は2年前、娘が大学受験に臨んでいた時に
感じたことを書き留めた note をご紹介したいと思います。

■目次

- 🌟 おうち英語と受験英語の両立
- 🌟 おうち英語と言えども大学入試でノー勉は無理・・・
- 🌟 楽園のドードが・・・
- 🌟 ドードーとして生き残るために

🌟 おうち英語と受験英語の両立

受験生であった当時の娘、忙しい毎日ではありましたが、
やはり英語を話す時間を強制的に作らないと
スピーキング力は目に見えて落ちていってしまうので、
週末をメインに週に3,4コマはオンラインレッスンを入れるように努力しておりました。
そんなある日、いつものようにレッスンを済ませた娘がちょっとため息交じりに

「なんかさあ〜、昔の方が英語話せていた気がするわ。
あの時は今よりも単語も文法も知らなかったけど、
無心で話すことができてた気がする。
今はどうしても文法の正しさが頭の片隅で気になっちゃって。なんかね〜。」

と言ってきました。

今日の note では
そんな娘の呟きから大学入試対策で経験した
文法過学習の弊害について考えてみたいと思います♪

わが家の娘、
世の受験生に比べれば英語に割いている時間は
圧倒的に少ないのですが、
どうしても学校の単語テストはそれ用に覚えなければなりませんし、
大学入試で出題される重箱の隅を突くような
紛らわしい語法問題を覚えていかねばなりません。
それに、英作文では文法の正しさが必要になってきて、
それなりの【受験勉強】と言われる勉強をしなければなりません。

時間にしたら大した時間を割いていない娘でさえも、
なんだかすでに文法過学習の弊害を受け始めているんだ・・・
となんだかやるせない気持ちになってしまいました。。

私が子どもたちに母国語方式で英語を身に着けさせるおうち英語をスタートしたのは、
私が受けてきた学校英語教育への反面教師の気持ちから。

「学校英語では英語を話せるようにはならないだろう」
と自分の経験から強く思い、
学校英語の逆へ逆へ行くへそ曲がりな方法を採用し、
これまで取り組んできたわけです。

しかし、わが家の場合、将来海外に移住する予定もなければ、
夫の仕事の都合で一家で海外赴任する確率さえ限りなくゼロに近かったため、
子どもたちには日本で将来生き抜いていけるだけの日本語力と
日本社会で通用する学歴が必要でした。

英語は完全な余技というか、
趣味程度にとどめておくべきとの意識を心のどこかに持ちながら
おうち英語に取り組んできており、
おうち英語と相反する学校英語と共存する日が必ず来ることも覚悟していました。

学校英語とおうち英語の共存を
どうせならポジティブに考えようと、
【あいまだった文法が修正される機会としよう】
とあってきたわけですが、
実際高校英語というのは文法を修正するものというよりは、
大学入試を突破するテクニックを教えるようなものなのですよ。

首都圏の中学受験は別になりますが、
基本高校入試までは「合格させるため」の試験です。

しかし、大学入試(Fラン大学除く)は
「落とすため」の試験となりますのでそうなってくると、
正攻法のテストだと多くの受験生が点数を取ってしまい
差を付けることができませんので、
わざとひっかけてくるトリッキーな問題を入れていかねばなりません。

「普通に考えればこっちだと思うじゃな〜い。思うよね〜〜。

でもね、これはこっちなんだよね〜〜!残念!!!切腹!」

(波田陽区か。懐かしすぎる…)みたいな問題ですよ。

わかっていただけか、微妙ですが。。

相手の罠にはまらない知識、

相手がよく繰り出してくる奇襲パターンを知ることが必須になるのです。

おうち英語っ子は英検2級程度までであれば

割と軽々と突破していくことが多いですが、

リーディング問題のそのほとんどを文法知識や語彙知識ではなく、

フィーリング的なところで解いている気がします。

4択の選択肢から「これはナイわ〜〜。ナイ!ナイ!なんでかわからんけど(〃_〃)」

という感じの解き方です。

その解き方が通用するものも、

英検は落とすためのテストではないため、

受検者を混乱させるような紛らわしい問題・表現などを出題していないからなんですよ。

子どもたちは素直に英文を読み、理解していけば OK なわけです。

同じく合格させるための試験である高校入試も

同じように結構フィーリングで問題を解いていくことが可能だと思っています。

そのため、高校入試までの英語の試験は

おうち英語の子は勉強なし・対策なしでも

楽々高得点を望むことができるのではないのでしょうか。

実際、娘も高校入試のための英語の勉強はほぼ皆無でしたしね。

☀ おうち英語と言えども大学入試でノー勉は無理・・・

しかし、その手が大学入試から途端に通用しなくなってきました。

通用する問題もありますが、
これまでのようにフィーリングで解いてしまうと
問題の餌食にされてしまうのです。

これまでの半生で素直に英文を読むことに慣れ親しんでいる
おうち英語の子たちは大学入試問題を前にすると、
謂わば1750年台に絶滅してしまった
【飛べない鳥・ドードー】のようなもの。(おっと、また変な例えが始まりましたよ・・・)

ドードーは

アホウドリのような人間に対して警戒心のない鳥で
人に簡単に捕まってしまう事から発見以来、
成鳥は食用としてヨーロッパなどに大量に輸出されるようになって数を減らし、
それに追い打ちをかけるように
人によって島に持ち込まれた犬やブタ、ネズミなどによって
卵が食べられるようになってしまった事から
ドードーは人と出会ってから僅か 200 年足らずで絶滅してしまいました。
引用サイト: 絶滅動物図鑑

という疑うことを知らない無垢な心ゆえに絶滅してしまった鳥のことです。

それまで島の仲間と飛ぶことさえ必要なくなるくらい平和に暮らしてきたところに、
ある日突然やってきた人間とその人間が引き連れてきた動物に
「あー、僕たちの島へようこそ! 仲良くしようよ!」
と警戒することなく接していたら、
とうとう絶滅させられてしまったというなんともかわいそうな鳥なんです。。。
人(鳥)が良いのもほどほどにしておかないといけないということですね。

おうち英語っ子にとって大学入試試験問題は狡猾な捕食者と同じ。
老獺に落とすことを目的に作られた大学入試という試験を、
何も知らないまま素直に解いてしまっは、
ドードーのように無残に散ってしまいます。

そうならず生き残るためには、
相手が仕掛けてくるトラップを学び、
疑いまくって問題を解いていく必要があるのです。

もうそれって英語なん？と言いたくなる知識ですが…。

高校生までドードーのように何も考えずに
楽園の住人のように英語を口にしてきた娘。

高校に入ってから、
どうも能天気英語を話しているとダメなところがあると気付かされます。

捕食者の餌食にならないための術を学ばされ、
テストで点数をゲットする保身術を身に付けていったところ、
テスト以外の四六時中常に、そして無意識に警戒するようになってしまった娘。。

昔はあんなに何も疑うことなく考えることなく、
ただ話していただけだった英語なのに、
今では頭の中で誰かが「それ、間違っていない？文法合ってる？食べられちゃうよ！」
と叫ぶのでしょうか。(そんなに大袈裟かどうかは知らんけど…)

オンラインレッスンの25分(たまに50分)は
確かに楽園にいられるのかもしれませんが、
学校という場に戻るとあのテストにもこのテストにも捕食者って。

✨ 楽園のドードーが…

しかし、英語を話すという場面では
ドードーが持つ素直さ、疑いを知らぬ心というのも本当に大切なのだと思います。

頭で考えてしまえば、
どんなに頭を高速回転させても、コンマ何秒かの遅れが生じるはずで。

話してる相手にそれが気付かれず、
うまく切り抜けたとしても、そ
の齟齬が会話中に何度も自分の頭の中で生じたとしたら、
それは大変なストレスでしょう。

しかも「昔はそんなことなかったのに…」と

運動会で走った後にお父さんが必ず口にするような体験を、
年に1度ではなく、毎週のように経験するのは辛いはず。

頭でガチガチに考えて英語を絞り出すようになってしまったら、
それはもうドーダーが絶滅したのと同じことなのではないかと
私も娘も危機感を持っています。

おうち英語で築きあげてきたことが学校英語に壊されてしまう…。

今回とにかく良かったことは、
娘が今回自分で自分の中の変化に気付き、
それを言葉にしてくれたことかと。

自覚があるなら話が早いですからね。

そして、私自身も今回の娘の呟きのおかげで
娘のオンラインレッスンの内容を見直す機会が得られました。

私の中にもいやらしい話ですが、
「受験のために語彙を多く獲得させたい。」であるとか、
「年齢相応のトピックやニュースを読んで英語力を上げてほしい。」という気持ちがあり、
最近小難しいトピックばかりをレッスン素材に選んでしまっていました。

わが家は純粋なバイリンガルを目指すことは早くから諦め、
日本語重視の偏重バイリンガル路線を目指してきたため、
当然ですが娘の母語は日本語です。

つまり娘は大部分の思考を日本語で行っているということになり、
小難しい話は一度日本語で思考してから
それを英語で考えるという流れになっているはずです。

完全にすべての思考が「日本語→英語」という流れになっていなくとも、
思考のどこかのプロセスに日本語が介在してしまうのは間違いなく、
その日本語を英語に直す際に文法が気になってしまうという
心理面の問題が発生してしまっているのだと思います。

もちろん英語力を上げていく過程で
このストレスに耐性も付けていかなければならないと思いますし、
避けられないことだとは思いますが、
あまりそういうことばかりやらせて
自由に楽園で遊ばせる機会を持たせないと
娘の中のドーデーは死に絶えてしまうと・・・と深く反省した次第です。

私も気付かぬうちに、ドーデーを絶滅に追い込む側にまわってしまっていたとは・・・。
猛反省中です。。

☀ ドーデーとして生き残るために

娘の素直な言葉のおかげで初心を思い出すことができました。

娘にもその点は謝り、
オンラインレッスンの時間は心の底から安心できる楽園であり、
ドーデーを迫害する人は現れない旨を伝え、
自由にやってよい、何も考えずに好きなことを話していいと伝えました。

オンラインレッスンの時だけでも受験呪縛から解放されてくれるといいなあ。

これまでの学校とおうち英語の両立、
いろいろと大変なことがありましたが、
この大学受験という壁を超えるのが一番キツイと感じています。

大学入試問題の毒が強い、強すぎる。。。
ドーデー毒殺されそうです。(なんだか語感が良い)

でも!
大学入試というのはあくまでも一つの過程であって、
これを目標におうち英語を続けてきたわけではないので、
行き過ぎた文法過学習の餌食になってしまうわけにはいきません!!!絶対、絶対 NO!です。

子どものころからオンラインレッスンは
遊びの場、自由な発言が許される場としてきたのに、
気付けばいつの間にかお勉強的な要素ばかりを
オンラインに取り入れてしまっていたとは私も大馬鹿野郎ですね。。。。

確かにこの日本社会を生き抜いていくためには
お気楽なドードーばかりではいられず、
ドードーも生き残るために進化していかなければならないでしょう。

疑うことも必要でしょうし、
ちょっと飛んだり走ったりする練習もしてみることも必要でしょう。

でもその本質を忘れてしまって
周りに同化してしまえばそれは絶滅したも同じ。。

とにかく絶滅しないようにこの1年心して守っていなければ!

親子で最後のひとあがきしてみます!!!

追記) こちらの記事は2021年4月26日投稿の記事です。
ドードーは無事受験から解放され、大学生となりました。
今は、英語はほぼ趣味となり、楽しくドードーライフを満喫中です。